



私のひとりごと

「清涼剤」

炎天下で仕事の大工さんの話。「髪の毛が、ジリジリ音をたてて燃えるんですわ〜・・・。」な〜るほど、よく見れば髪の毛がチリチリになっている。「いや〜これは僕、天パ（天然パーマ）なんです。」こんな会話を真顔でする夏であった。なので、休憩中の話題と言えばもっぱら熱中症の話。「昨日、頭がクラクラするので家に帰り、クーラーガンガン効かして寝たら直ったわ〜危なかったで。」と言った具合である。じっとしていても汗が吹き出るのに、まして炎天下の中で動き回る仕事ともなれば命がけである。先日私も現場周りのさなか、エアコンの効いた車内にも関わらず、熱中症でダウンしてしまった。

そんな中、建築組合の安全パトロールが行われた。嶺南地方一円で建築中の工事現場を、抜き打ちで調査するのである。「足場が適切に組まれているか?」、「作業中のヘルメット着用は?」、「道具類を安全に使用しているか?」等を厳しくチェックするのだ。建築業界では高所作業が多い為、毎年死亡事故が絶えない。なので特に足場のチェックは厳しい。私も組合長という立場から、労働基準監督官と共にパトロールに参加させて頂いた。労働基準監督官は危険と判断すれば、工事中止命令を出せる権限を有す。現場サイドから見れば、いわゆる「うるさがた」で、パトロールに同行する私達も冷ややかな目で見られてしまう。さらにこの暑さの中・・・ヘルメットと安全带、安全靴とフル装備。この服装だけで汗が吹き出る。「安全パトロール中に熱中症で病院に搬送されてはシャレにならないで・・・。」と、つぶやきながらも、そこは命に関わる事、念入りにチェックして周る。



今でも外国で使われている足場(^_^)

ところがある現場に到着した時の事である・・・。そこは外壁塗装の工事現場であったが、設置してある足場が「木」で組まれている。私が大工弟子入り当時、今から40年以上も前ならば、木や丸太で組まれた足場は当たり前存在したが、現在では全くお目に掛かる事は無い。中国では超高層ビルも竹の足場が使われており、あまりのすごさに芸術的と評価されているが、それはさておき・・・。その現場は作業時に、ロープの綱渡りのようにしなければならない箇所もあり、危険極まりない。全員が言葉を失った・・・。現在の足場は単管足場といって、鉄管で丈夫に造られているが、今回の特に若い労働基準監督官にとっては、マニュアルにも存在しない足場が目の前に存在するのである。私は監督官に「工事中止と足場の架け替えを促しましょう。」と声を掛けるが、「あ・・・いや〜・・・予算の事もあるだろうし・・・無理には・・・。」と、完全にパニックしている。マニュアルに存在すらない足場だけにチェックのしようがないのであろう・・・。それでも我に返った?監督官は、命綱の着用を告げた。

鬼?の監督官と言えど、人の子だなあ〜と心がホッとした。私にはこの出来事が、猛暑の中の一服となる「清涼剤」のようであった。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき・・・、

あーがしう
ございました!!

